

## 6.2 教育研究指導のあり方

### 進捗状況報告

#### 【6.2.1 カリキュラムにおける高・大連携】

2005年度から高大連携の試みとして高校生の文学部の授業への受け入れを開始、同年度の春学期は聴講生は1名であったが、2006年度春学期は9名、2007年度春学期は3名と実績を重ねつつある。

#### 【6.2.2 履修指導】

文学部という学びの場への案内と初歩のアカデミック・スキルの伝達を目的として設定された人文演習科目の充実を図るために学期末ごとに人文演習担当者会議を開催し、各担当者が事前に提出した報告書をもとにして授業内容・クラス編成のありかたなどについて種々の議論を展開している。また、広く学際的な教養を習得させることを目的とした総合科目については、総合科目等検討ワーキンググループ及び総合科目運営委員会でこれまでの成果をふまえ、この科目が提供する授業により多くの教員が積極的に関与することによって協同性の高いカリキュラムが専修の区分を越えて実現される方向が検討されている。

さらにこうした新カリキュラム導入に伴う教育・研究指導のありかたを前述の委員会単位で検討することと並行して、文化歴史学科による2年生時専修分属に向けてのアンケート調査や履修ガイダンス等といったきめ細かい履修指導も行われている。

### 学内第三者評価

学部教育の中で、人文演習をその案内役に明確に位置づけていることと、総合科目で高い協同性をめざしている点が評価できる。その実効性を高め、効果を検証するためにも、人文演習担当者会議、総合科目等検討ワーキンググループ、総合科目運営委員会のそれぞれの検討内容を学部として有機的に結びつける方策が期待される。

なお、特別委員からは以下の意見があった。

・履修指導について、学生によって意識に高低があるところから統一的な指導がしにくい状況があるとのことであるが、人文演習担当者会議を開催して担当者が意見を交換する場が保証されているのは優れた工夫である。今後の改善に期待したい。